



トキワヒガシ No.45

六月九日(火)に、社教委員会主催の学区ふれあいグラウンドゴルフ大会が行われました。当日は雨が心配される状況でしたが、大会を成功させようという皆さんの思いが勝り、大会は大盛況となりました。

児童・職員を含めた大会参加者は、当初の予想を超える六十四名となりました。そこで、全体を十六のグループに分け、そのうち八グループがコースを回りました。一方、残りのグループは練習をして待つことになりましたが、その間に多くの児童が地域の方との交流をすることができました。多くの笑顔を見ることができ、いい時間になりました。



先日、脳科学者の中野信子氏の講演を聴く機会があり、非常に興味深い内容について知ることができました。それは実行機能をつかさどる前頭前皮質は二十五歳から三十歳ごろに完成する、つまり今の子供たちの年代では未完成の状態であるというものでした。

前頭前皮質は脳の一部分で、以下に紹介する実行機能を担当するそうです。

○対立する考えを区別する
○現在の行動によって、どのような未来の結果が生じるかを判断する

○成果の予測
○行動に基づく期待
○社会的なコントロール(もし行ってしまうたら、社会的に容認できないような結果を引き起こすような衝動を抑制する)

ということとは、二十五歳くらいまでは、「○○すれば、□□になる」(例、今のうちに頑張って勉強しておけば、将来の進路決定が有利になる)という論理は理解ができないということになります。別の言い方をすれば、お金欲しさから罪を犯してしまったとしたら、それが自分の将来にとって悪い影響を及ぼすことがまだ分からないということになります。未成年者が闇バイトや匿名・流動型犯罪グループなどに巻き込まれる原因はそのあたりにあるそうです。だからこそ、この時期から正しい判断ができるように教えることは効果があるとも、中野先生はおっしゃっていました。

改めて、この時期に道徳の授業で正しい価値観を教えることの意義を実感しました。「もう理解してもいいはずだ」と簡単に決めつけるのではなく、大人になったときに、正しい判断ができるように、丁寧に諭していきたいものです。